

「悪石島小・中学校の「悪石島のボゼ（盆踊り）」伝承活動の取組」

1 学校名

十島村立悪石島小・中学校

2 学年・人数

小学生7人（1年2人，2年1人，3年1，4年2人，5年生1人）

中学生6人（1年1人，2年2人，3年3人） 計13人

3 日時・場所

(1) 日時

令和5年8月29～31日

(2) 場所

悪石島公民館・テラ（墓地）等

- ・ 8月29日（火）：盆踊り（テラ→公民館）
- ・ 8月30日（水）：盆踊り（公民館→テラ）
- ・ 8月31日（木）：ボゼ祭 ハッパン大将

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

悪石島のボゼ（あくせきじまのボゼ）

(2) 由来

ボゼは盆の終わりに現れ盆行事の幕を引くことで、仏を拝む盆行事に熱中した人々を、太陽の輝く日常の力強い新たな生の世界へ引き戻し、転換させ甦らせる役目をもつとされる。ボゼは、体中や持っているマラ棒の先端についた赤土を人々に擦り付ける。ボゼには、盆時期に先祖の霊とともに現世にやってくる悪霊を追い払い幸をもたらす力がある。

(3) 構成等

旧暦7月16日には、テラに集まり男性（小学生の女子も含む）のみで盆踊りを行い、その後公民館に移動して再び盆踊りが行われる。ここで、島民による口上が述べられ、呼び出しと太鼓の音に導かれ3体のボゼが出現する。ボゼが帰った後、最後の踊り（ニワモドシ）が行われる。盆踊りで行われる踊りは、ところ（場所）・ときを定めて決まった種類の踊りが踊られる。代々口伝のみで伝えられて、受け継がれてきている。また、盆踊り終了後に子どもたちは「ハッパン大将」という踊りを披露する。

5 保存会や地域との連携の具体

盆踊りは、踊るところ、ときが定められ、先祖の霊や神・仏に奉納するものとされているので、お盆以外に踊られることはなく、伝承も口伝のみとなっている。そのため初めて参加する者は、実際の踊りの中に入り、島

民が踊っている姿を参考に、見よう見まねで覚えるしかなかった。しかし、現在「盆踊り保存会」が踊りを伝え、学校も協力・連携している。

ボゼの登場する最終日はボゼ特別便により、多くの観光客や取材陣が訪れ、大きな賑わいをみせる。教職員も、島民の一員として積極的に参加し、真剣に取り組んでいる。この時期は夏季休業中であることが多いが、よほどのことがない限り、全職員が帰島し参加をしている。踊りは男性のみであるが、女性は各家庭での御盆行事や食事の準備等で大忙しの中、踊りの合いの手などで参加し、場を盛り上げてくれる。まさに島が一丸となり取組む姿から、郷土の伝統文化への誇りと熱い思いを知ることができる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

伝統を引き継いでいこうという思いから、盆踊り保存会が発足している。盆踊りは、基本的に見よう見まねで覚えていく。唄われる歌詞の意味や踊りの一挙手一投足について年長者に確認しながら、覚えていく。様々な世代の交流の場となっている。次の世代へと伝統を引き継ぎ、守っていくうえで、大変有意義であると考え。子どもたちも楽しく参加し、島の伝統を引き継ぐことの大切さを実感している。

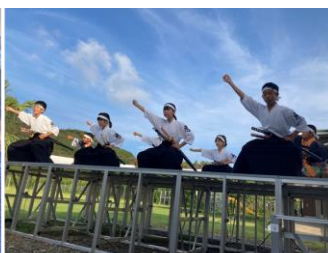
7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



盆踊り



ボゼ祭



ハッパン大将

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【中学3年 生徒（山海留学生）】

これまでも、ボゼ祭に参加したいと思っていたが、夏休みの帰省やコロナの影響で参加できなかった。悪石島で過ごす最後の年に、参加できてよかった。みんなで伝統を大切にしている島のことが増々好きになり、島のことが誇らしく思った。

【教職員】

昨年までのコロナウイルスの影響が終息に向かい、多くの観光客を迎える中で行われる予定のボゼ祭であった。しかし、ツアー便が悪天候で欠航となり、島民だけで迎えるボゼ祭となった。コロナウイルスやツアー便欠航とは、関係なく島の中では、大切な神行事として執り行なわれる。島が一体となる瞬間を感じる。

【地域住民】

唄の内容や意味、どのように伝わってきたか改めて知ることができた。また、島の年長の方が久しぶりにボゼ祭りに参加し唄声を披露してくれたことがうれしかった。島に住む人たちがそれぞれの思いをもってボゼ祭を迎えていると思うと感慨深い。